

山水の郷「桂林」 (2010年5月24日～28日)

袖山 紘

以前上海に滞在していたとき中国の友人に桂林について尋ねたところ、「確かに景観は素晴らしいけれども、あまりにも観光地化しすぎているので薦められない」とのことであった。しかし、様々なTV映像に映し出される幻想的な景観を見るにつけて、いつかは幽玄の景観を見に行きたいと思っていた。これまで北京や上海の旅を共に楽しんできた福島君から、「いいツアーが出ているので一緒に桂林に行こうではないか!」との誘いを受け、2010年5月24日に出発する阪急旅行社の「スイートルームに泊まる! たっぷり桂林5日間」トラピックスツアーに夫婦2組で申し込むことになった。

9:35 発の飛行機に乗るためには、7:35 にはセントレアに到着していなければならない。これに間に合うようにするには松本を遅くとも午前3時には出ることが必要だ。名古屋に住んでいたころは6時頃で十分だったが、松本からはそうはいかないのでセントレア東横インに前泊することにした。帰国の日も21:30 到着と遅い便なので東横インに泊まり、翌日に松本まで帰ることにする。常滑に住む義兄たちと夕食を共にする約束をして、ゆっくり木曽路を走る。木曽路を走る目的はもう一つ、木曽福島に入る手前の「水車屋」で蕎麦を食べることだ。名古屋に住んでいた頃は松本を往復する際にここで蕎麦を食べるために木曽路を走ったものだ。高速料金もかからないので一挙両得といったところ。中津川から高速に入り、土岐ジャンクションから東海環状道に入った。初めて走ったがまだ新しいこともあり、非常に走りやすい道路だ。距離的には名古屋を回ると変わらないかも知れないがずっと快適に走れる。17時頃東横イン到着。たまたま日曜日だったため日曜日割引で30%の値引き、その上東横イン会員になったときにもらった3500円の宿泊利用券があったため、1780円がツイン1部屋朝食付きの宿泊料金であった。さらに、パークアンドフライトで東横インの駐車料金は無料となる(10日間まで)。セントレアの有料駐車場に入れると7日間で10500円だがそれも不要ということだ。

5月24日 セントレア～上海～広州～桂林

仕事を終えてから家を出たために、昨晚遅く到着した福島夫妻と朝食事に顔を合わせた。おにぎり味噌汁の簡単な朝食を済ませ、セントレア集合の7:30分に間に合うようにシャトルバスに乗る。ツアーに参加する全員が集まってから行動を起こす訳ではないので、早く来た者から阪急旅行社のカウンターでEチケットを受け取り、搭乗手続きをするために中国南方航空のカウンターの前に並ぶ。搭乗券を受け取り、機内預けの荷物を渡してからセキュリティチェックに向かう。携帯電話、小銭入れ、腕時計など金属類は全て機内持ち込み用のナップザックに入れたため金属探知チェックはすんなり通過。今回は同じCZ0380便ではあるが上海で一端飛行機を降り、入国手続きをしてからトランジットで広州

に向かう。上海では再び搭乗前にチェックがあり、免税店で買った酒は機内持ち込みができない。それが解っていたので、桂林のホテルの部屋で食後に飲む酒を昨日セントレアへの道中で仕入れ、機内預けのトランクに入れておいた。イミグレーションを通り、TS キュービック（クレジットカード）のVIP ラウンジでサービスの生ビールを飲みながらしばらく休憩。

中国南方航空 CZ0380 便は定刻 9:35 離陸。10:50 上海浦东国際空港着陸。浦东空港 12:40 離陸。广州白雲空港 15:00 着陸。

機内預けの荷物を受け取り、广州のガイド「何」さんの待つロビーへ。たまたま上海から関空から来たトラピックスツアーとフライトが一緒になったため、我々のツアーメンバーがそちらに紛れ込んでしまいそうになった。セントレア出発のトラピックスメンバーが何さんのもとに全員集まり、ここで初めて我々のツアー参加者が 21 名であることを知った。機内預けの荷物は次の桂林に向かう CZ3303 のカウンターに預け、何さんのガイドで広州観光へ。とは言っても観光は一か所だけで、それもアヘン戦争後に欧米列国租界となった「沙面」周辺を 30 分程度散策しただけ。バスの中での何さんの現地通貨交換レートは 1 万円 = 700 元だったが、元の持ち合わせがあるために換えず。

广州（guang zhou 広州）は珠江の沿岸に発達した町で、中国華南地方の中心地。人口は 1300 万人で重慶を除き、北京、上海に並ぶ大都市である。1300 万人のうち 500 万人は地方からの労働者とのこと。この辺も北京や上海の経済特区とよく似ている。しかし、北京や上海の林立するビル群に比べると圧倒的に高層ビルは少なく、明らかに町の様相は異なっている。今年 11 月にアジア大会が广州で開催されるので美化に励んでいるようだ。引ったくりによる犯罪が非常に増えたこと、バイクタクシーによる事故も多いことから、市内はバイク乗り入れ禁止という。道路は渋滞が激しく、移動に時間がかかる。トヨタ、ホンダ、三菱などの日本車も多い。17:30 广州空港へ向かい、空港内にあるレストラン「生利恵龍」で广东（広東）料理の夕食。广东料理風に味付けした野菜料理なのかなという程度のもの。例によってビールは大瓶 1 本 30 元（スーパーで買えば 10 元しない）。

广州白雲国際空港 21:00 発、南方航空 CZ3303 便で桂林（gui lin）へ。桂林二江国際空港着 22:20。荷物を受け取り、出たところに現地ガイドの寥（liao）さん（20 代後半？の女性。日本語はそれほど流暢とは言えないがまあまあか。明るく元気一杯なところがいい）が待っていた。もらった名刺のピンイン表示では、寥は Liao となっているが、日本語で「りょうです」と自己紹介したので、みんなはそれから彼女を呼ぶ時は「りょうさん」になった。名刺によると彼女は桂林 CITS（桂林中国国際旅行社）のガイドであり、阪急旅行社のトラピックスツアーに派遣されていることがわかる。中国では日本の旅行社の添乗員による中国国内のガイドを認めておらず、必ず中国の旅行社からガイドの派遣を受けることを義務付けている。桂林 CITS には英仏独伊泰韓など外国語を話すガイドが 400 人ばかりいて、そのうち 40 人ほどが日本語ガイドだそう。バスに 40 分ほど乗り、真夜中の 23:30 頃ホテル到着。「桂林幸運酒店 The Fortune Condominium Hotel」というホテルで、20

棟くらいある5階建てマンションのうちの十数棟を日本の企業が買い取ってコンドミニウムホテルとしている。フロントで見たところ、円の交換レートは1万円=731円で、广州のバスの中で換金した人はかなり損をしたことになる。マンションの建物1棟が我々のツアー21名の4泊する宿泊施設である。ここに宿泊するそれぞれのツアーが個別に一棟を使うようになっているらしい。建物のへ出入りには部屋のカードキーを使い、その棟の宿泊者以外は入れないようにセキュリティについて配慮がなされている。マンションの一戸分がそれぞれの客室になっているので、我々には2ベッドルームに空き部屋1、20畳ほどのリビング、バスルーム、キッチン、トイレという2人には広すぎる空間があてがわれた。空き部屋と1ベッドルーム、キッチンは全く使うことはなかったのも、隣の福島夫妻と一緒に全く問題はなかったように思うが、これが今回のツアーの目玉「スイートルームに泊まる」であるから別々で当然か。キッチンには大きな冷蔵庫が備えられているが、中には飲み物などは一切入っていないのいい。自分で調達したものを入れておけばいいということだ。他のホテルのように高価な飲み物など部屋の冷蔵庫には必要ない。しかし部屋には貴重品ボックスは備えてないのでフロントのセーフティボックスにパスポートなどの貴重品を預けに行った。その後ホテルのすぐ横にあるスーパーに行ってビール、つまみを買った。シャワーは明朝にして福島夫妻の部屋で酒盛り。買ったつまみの中に激辛のサラミソーセージがあり、口の中が痛くなるほどでお手上げ。これは福島君が土産に持ち帰ることになった。

今日はあまり歩いてはいないが、2回も飛行機を乗り継いだ長旅だったので非常にくたびれた。これまでのアメリカやヨーロッパ、アジアの旅行でも1日に2回飛行機を乗り換えたことはない。考えてみると广州に寄ったのは全く無駄としか言いようがない。大した名所でもないところを散策して、大した料理でもない夕食を食べただけなので、上海からダイレクト桂林に飛んでしまった方がはるかに効率的だ。あるいは上海経由ではなく、セントレアから广州に直接飛ぶ便もあるが、それを使わずにこんな無駄なルートを採用するのは、南方航空をセントレア—上海—广州と利用することが旅行社にとって何か旨みがあるからだろう。

5月25日 桂林幸運酒店滞在 桂林郊外、市内観光

5:30 起床。洗濯とシャワー。一人で散歩に出る。小さい包子4個を1元で買い、食べながら30分ばかりホテル周辺を歩く。6:30頃朝食を食べにフロントのある棟のレストランへ。バイキングの和洋中華食との案内だが、メニューが貧弱。これまでのどのホテルで食べた朝食より品数が少ない。朝食は量を食べないけれど、品数は多い方がいい。

9:00 集合、出発。古鎮「大圩 (da xu)」へ。(圩=墟)

广西壮族自治区 (guangxi zhuang zu zizhi qu) には中国の大半を占める漢族が65%、壮族その他の少数民族が35%居住しているが、中国全土の壮族の95%、約1500万人がこの自治区に集まっていることから壮族自治区になっている。桂林市は广西壮族自治区北東

部にあり、古来「桂林山水甲天下（桂林の山水は天下一）」と言われるほどの景勝地である。桂林の名は桂花（木犀）が非常に多いことから来ているそうだが、桂林には4種類の桂花（丹桂、金桂、銀桂、四季）があるという。日本で知られているのは金、銀だが他にもあるのだ。現に桂林の街路樹の多くは桂花だ。人口は意外に少なく、約70万人。

町を抜けてしばらく走ると極端な凸凹道になった。巻き上がる砂埃に周辺の樹木は砂だらけ。雨が降ったらものすごい泥道になるだろう。余りにも激しいバスの揺れに寥さんの「お客さんへのサービスで全身マッサージをしています」の言葉に大笑い。道路の周辺にはイチゴ、ビワなどの畑があり広がり、砂埃をいっぱい浴びている。ところどころに売店があるけれど買う気にはならない。乗ること約40分、大圩へ着いた。500年ほど前の古鎮ということだが、上海周辺にある水郷地域のように観光地化されておらず、犬が道路上で昼寝しているようなのんびりした古い家並みだ。ここへの凸凹道や、町並の保存の状態からすると、桂林市は大圩を観光地としてそれほど売り出すつもりはないようだ。40分ほど観光してまた凸凹道を通って市内にもどる。途中掛け軸屋に寄ったが誰も買わず。

昼食は「乐乐酒店」で桂林料理。全体的に薄味であるため、この特産品である豆板醤を付けて食すと美味である。ビール1本20元。食後にツアー参加者の大半が豆板醤5本1000円で購入。

「象鼻山公園」へ。天気が良いすぎて暑い。桃花江と漓江の合流点にある、象が水面に鼻を入れて水を吸い込んでいるような形の奇岩を展望できる場所。市内観光地では屈指の場所らしく、観光客が多い。そこから数百メートル歩いて「日塔、月塔」のある「杉湖」へ。塔は新しく観光用に造られたものらしく、水に映る姿はなかなか美しいが歴史は感じられない。気温は30度を越えているようで本当に暑い。集合時間までお土産屋の中に入って涼む。中心街を歩いて「榕湖」へ。ガジュマルの古木が目立つ。中には500年を超えるものもある。「榕」の字はガジュマルを表すとのこと。古い桂林城市の「古南門」周辺で自由散策。壮族衣装で写真を撮る観光客相手の写真屋で、ツアーメンバーのオバさんの一人が危うくスリの被害に遭いそうになったらしい。日本人は外国に出た時の安全に対する意識が低すぎる。「気を付けて」としつこく言われていてもつい忘れてしまうことが多い。14:30頃市内の市場を見学。食料品中心の結構大きな市場だが、内部は薄暗い。道路に面している店舗は明るい、半地下のような野菜、魚、肉類を売っている場所は薄暗いがために余計に不潔感を感じてしまう。桂林は羅漢果が名物らしく、大量に売っている。果物屋でマンゴーを4個10円で購入。大きな哈密瓜を買った人もいたが、部屋でどうやって食べるのだろうと余計な心配をする。ホテル帰着15:10。隣のスーパーでビールを買い、シャワーを浴びて少し休憩して16:00

頃から隣室でビールを飲む。

17:30夕食へ。ホテル内の中華料理店で桂林料理。昼食同様豆板醤が威力を発揮した。ビール一本20元。食後二人で散歩に出る。今朝一人で散歩したときに発見した「烧烤」の屋台村のような所へ入ってみる。時間が早いせいかまだほとんど客はいない。「烧烤」とは

どんなものかが解らなかったが、店の前に置いてある材料から、肉、野菜、魚介類などの串焼きらしい。これらの串を買い求め、自分のテーブルで焼いて食べるのが中心で、鍋に材料を入れて炒めるようなものもあるようだ。桂林では「烧烤」が流行りのようで、至る所でこの文字を見た。ホテルの前の道路（施家園路）を歩きながら、最後の日の夕食に入るレストランを探す。あまり小さすぎず、大きすぎず、そこそこ客の入っている店がいい。大きい店は値段が高い可能性があるし、夕食時に客の入っていない店は味が悪いと思った方がいい。ホテルの前の道を北へ 200mばかり行った大通り（解放東路）は交通量も多く、にぎやかな通りだが適当なレストランはない。通りを向かい側に渡り、解放橋に向かって歩いていると、左側に市場があった。午後に寄った市場よりは小さいが賑わっていた。ホテルへの帰路の施家園路で、往路で見た良さそうな店を明後日の食事場所の第一候補とする。帰着 19:30、約 1 時間の散歩だった。隣の部屋で 21:30 頃まで飲みながら歓談。午後の日程が余裕があったので身体的には楽だったが、急に真夏の気候の真ただ中に入ったのはきつい。天気予報によると明日も 30 度を越えるようだ。明日は今回のハイライト「漓江下り」だ。11 時頃寝たが外が騒がしいので起こされてしまう。12 時過ぎだったが、外で日本語で大声でしゃべっている。何か事故でもあったと思ったが、飛行機が遅れたので深夜に到着した日本人ツアー客だったようだ。迷惑なことだ。

5月26日 桂林幸運酒店滞在 漓江下り、阳朔観光

4:00 起床。昨日楽な行程だったせいか早く目が覚めてしまった。朝食に行くまでセントレアで買ってきた本を読む。6:30 朝食。多くの団体が入っているの、1階は満員。2階で食べる。日本人客が圧倒的に多いが、中国人客もいる。

8:00 集合、出発。今回のツアーメンバーは全員時間に正確で気持ちがいい。集合時間に遅れるメンバーは今のところ一人もいない。それだけ旅慣れている人たちなのだろう。我々は参加しなかった昨晚のオプションツアーで、ガイド補佐としてツアーメンバーの中からA氏を添乗員役に決めたようだ。A氏は寥さんからトラピックスの旗を借り受け、張り切って先頭を歩きながら皆に声をかけている。なかなか堂に入ったもので微笑ましい。

9:00 乗船。4時間あまりの漓江下りが始まった。我々の乗った船は 70~80 名の日本人ツアー客のみで、1階はガラス窓に囲まれ、テーブルを挟んで対面シートに座る船室、2階はオープンデッキになっている。満々とした水がゆったりと流れているが、沿岸の樹木の結構高い位置に紙やビニールなどのゴミが引っ掛かっている。3mほどもあるだろうか。

3週間前の大雨で水位がそこまで上がったという。川幅は 100mほどもあり、ものすごい豪雨だったことがわかる。流域では家屋の浸水や流失の被害も出たらしい。絶景ポイントは出船後 1 時間ほどしてからとのことで、船室からお茶を飲みながら外の景色を眺める。長江より川幅が狭いので流れが速く、水はきれいだ。突然船の外から窓に人が張り付き、細工物のようなものを見せながら「3000 円！3000 円！」と叫んでいる。竹製の筏を漕ぎ寄せ、船の出っ張りに繋ぎとめて窓によじ登っている。一人がいなくなったと思うと反対側から

別の売り手が現れる。皆同じようなものを売ろうとしているが「粗悪品だから買わない方がいいので窓を開けないで」とガイドが言っている。絶景ポイントに入るころには物売りは来なくなった。川下りの船は多く、欧米人の観光客も結構乗っている。個人がチャーターしているような小さな船もあるようだ。

絶景ポイントに近くなったのでオープンデッキの先頭部に立って眺めることにした。数台のカメラを駆使して熱心に撮影している人がいる。前回来た時にいい撮影場所に立って、満足のいく写真が撮れなかったのが、今回は上船と同時に2階に上り一番いい場所を確保したとのこと。プロの写真家ではないようだが、写真を撮るために2度目の「漓江下り」ツアーに参加するとは恐れ入谷の鬼子母神。左の岸边に洞穴が見える。冠岩と呼ばれる山の下部に半分水没状態の鍾乳洞がある。我々の船はこの鍾乳洞のすぐ横の船着き場に停船した。ここで降りて小舟に乗って内部を観光することもできるので、観光を終えた7～8人の観光客が上船した。船が岸を離れると聳え立つような兩岸の奇岩が眼前に迫ってくる。長江下りで見た絶壁ほどの迫力はないが見上げると首が痛くなるような岩壁もある。今日は晴れているので雲間に霞んだ岩山や、雨に煙る山水画風の景色とは異なるが、これはこれで絶景であることは確かだ。猫が両耳を立てているような猫耳岩、九匹の馬が描かれているような九馬画山の岩壁、女神が立っているように見える岩、サントリーウーロン茶のコマーシャルにも使われているという「興坪」の山水画のような景色などなど。一時間ほどで絶景ポイントを通過し、船室に戻って昼食を食べる。ここでも豆板醤が大活躍。何を食べても同じ味になってしまうが、豆板醤を使った方が美味しいということだ。昼食時の瓶ビールは無料だが缶ビールは有料という訳のわからないサービスがある。昼食後は船内がお土産物屋と化した。細工物や工芸品、装飾品、写真集などなどを次々に女の子が売りに来る。熱心に値切り交渉をして買い物を楽しんでいる人もいるが、我々のメンバーの一人のおじさんが、玉（ぎょく）？で造った装飾品20点ばかりのお盆丸ごと1万円で買ったのには驚いた。

12:45 陽朔着。いかにも「観光地のお土産物街」という「西街」で1時間ほどの自由時間。船下りはここで終点だから船を降りた観光客は皆ここを通ることになる。「ここは欧米人観光客が多いね」と寥さんに言ったら「麗江も多かったでしょ」と言われた。一日目に私のこれまでの中国の旅行先を尋ねられ、麗江が入っていたことを彼女はちゃんと覚えていた。町並みの最後に大きなスーパーがあったので入ってみる。なぜこんなところにこんなものを売ってるのと不思議に思ったが、形が気に入ったので内蒙古で造っている「馬乳酒」の焼酎のような酒を買った。88元。変わったデザインの皮袋で酒瓶が包まれている。歩いていると物売りのおばさん達が「1000円！1000円！」と物を押しつけて来る。だまっていると品数がどんどん増えてくる。上海や北京と同じようにここでも「ロレックス！ロレックス！」とうるさい男がついて来た。たまたま以前上海で買ったロレックスを手首にしているのを見て、同じものを出していくらだったかと聞く。実は1個100円で買ったのだが、50元だったと言ったら2個100円で買わないかと言う。「不要！」。じゃあ3個で100円で

はどうだと言うので、4個100元なら買うと言ったらOKされてしまった。しかたなく100元で4個買うことになった。そのあと自動巻きを150でどうだと言う。「不要」。120！「不要」。100！「不要」。ずっとついて来るので20なら買ってやると言ったら、「さっきの電池式は4個100だから1個は25だ、自動巻きを20とはどういうことだ、俺の言っていることを分かっているのか」としつこい。買うつもりがないので20を言い続けてバスに乗るところまでついて来た。最後に50でもいいと言ったがバスに乗ってしまったのでバイバイ。

高田郷へ。漓江支流の遇龍川の絶景ポイント。竹製の筏で作った小さな観光舟が沢山舫つてあるが観光客が少なく、誰も乗らないので船頭たちがカード遊びをしている。ここでも物売りのおばさん達がどっと押し寄せる。「1000円！1000円！」。上海や北京でも最近聞くようになったが、「1000円！」という売り声はここ数年ではないか。東南アジアでは20年ほど前にはこの手の売り子は結構いたので、ひょっとすると少しずつ北へ広がっているのかも知れない。月亮山はバスを一端停止させて見ただけ。岩山の中腹に穴が開き、向こうの空が見えるというものだ。ここから1時間半ばかりのドライブで桂林市内に戻る。車窓から見えるのは山間の農村地域で、野菜の畑や田植えが終わったばかりの水田が広がり、ビワなどの果物を沿道で売っている。

17:00「桂林环球大酒店」で四川料理の夕食。四川料理なのにはほとんど辛くない。「麻母豆腐です」と言って小姐が持って来た料理は常家豆腐だ。料理全体は豆板醬が欲しいと思う味だし、ここは本当に四川料理を出すレストランなのかと疑ってしまう。四川料理の店でなぜ豆板醬が必要なのだ！ 18:30 ホテル帰着。スーパーでビールと中国産ブランデーを購入し、シャワーを浴びてから隣室で酒盛り。日本から持って来たウイスキーは途中なくなってしまったのでブランデーに切り替える。23時就寝。

5月27日 桂林幸運酒店滞在 桂林市内観光

6:00起床。天気予報は雨。6:30朝食へ。たまたま同じテーブルに座った他のツアーの日本人女性が、昨日スリの被害にあったと言う。我々も今日行くことになっている中心街の歩行者天国で一休みしようとKFCに入った。飲み物の値段を確認しながら会計しようとして、手から集中が逸れたほんの一瞬に左手に持っていた財布をすり取られたとのこと。被害は幸い現金だけで5万円ほどで済んだと言うが、彼女にとって5万円はさほどの額では無いかも知れないが、現地の平均的収入にすれば2~3ヶ月分の給料に当たるほどの額だ。そういう甘い汁を吸わせないようにしないと、こういった犯罪は減って行かないだろう。同じ場所で子どもたちにしつこく花を買うようにせがまれ、それを邪険に断ったら集団で取り囲まれ、大声でツアーの男性を呼んで助かったとも言っていた。隙を見せると危ないのだ。食事を終えて外へ出たら雨はやんでいる。

8:40集合が、5分前には全員集合していたため出発。七星公園の動物園に向かう。今日も添乗員役のA氏は旗を掲げて張り切って先頭を歩いている。七星公園の動物園は今年開園したばかりの新しい動物園だ。まだ未整備の部分が多く、計画全体のまだ30%程しかで

きていないようだ。まず最初にこの動物園の目玉「パンダ」を見に行った。全部で3頭で、1頭が大人、2頭が子どもだった。子どもとは言えもう成獣と同じくらいの大きさに育っていたが、仰向けに寝ころんで、無防備にお腹を空に向けて竹を食べている様子はまだ幼児かなと思わせられる。おとなパンダはさすが成獣の貫録か、ちゃんと座って竹を食べている。レッサーパンダが全部で20頭あまりいたが、まだ開園時間からそう時間はたっていないのにフンだらけの檻にいた。飼育員がちゃんと朝の掃除をしていないのだろう。クジャクは飼育数に比べて檻が狭いので、メスの関心を引くために広げる羽はあちこち折れていて気の毒なくらいみすばらしいオスたちだった。動物を飼育する愛情に欠けているように思える動物園だ。動物園見物は30分ほどで終了。

次に寄ったお茶屋では、これまでの中国各地のお茶屋でもそうであったように、大姐がユーモアを交えながら流暢な日本語で説明する。お茶を出す耐熱ガラス製器具がなかなかよさそうなので1個1000円で購入。7~8種類の桂林特産の菓子の試食と5~6種類くらいのお茶を試飲したが、お茶よりも菓子の方を買う人が多かったようだ。前立腺や腎臓に効能を持つお茶には福島君が興味を示し、何箱か買っていた。お茶は上海で行きつけのお店で買えばここよりもずっと安く買うことができるだろう。

桂林の奇妙な山の形は、堆積した石灰岩が浸食されてできるカルスト地形によるものらしいが、象鼻山ばかりでなく町中にいくつもの岩山が聳えている。日本では秋吉台がカルスト地形の典型だが、岩山の大きさのスケールが全く違う。町中にあるそんな岩山の一つ「伏波山」に登る。折れ曲がってはいるが、ほとんど直登するような感じの急な階段を320段ほども登った。時間はそうかからなかったが暑い中、息を切らせて登るのは大変だった。高さも杭州の六合塔に上った時のような感じだ。頂上は10m四方くらいしかなく、眼下に漓江が流れ、桂林市内から近郊が見渡せる。なぜか風がなく、暑いだけ。しかも高所は苦手だから早々に降りる。上りよりも下りの方が階段が急傾斜に思え、直下の景色が見えるだけにさらに恐ろしい。一步一步が膝に来た。福島君は100kg近い過剰な自重にもめげず、元山岳部のメンツにかけて登ったが、降りてきたときはシャワーを浴びたかのように大汗をかいている。下に降りると川面を渡ってくる風が涼しく、一息つくことができた。

昼食は「珍苑酒楼」というホテルのレストランで桂林風飲茶料理を食べる。焼き餃子があったので飲茶料理だったのだろうがよくわからなかった。

昼食後「芦笛岩鍾乳洞」観光に行く。バスの中で桂林最大の鍾乳洞と言われたが、日本の秋吉洞と比べてどうかな、そう大したこともないのでは、と思っていたらなかなかのもの。スケールがかなり大きい。観光用に整備されているのは入り口から500m程度だが、この間の鍾乳石や石筍の巨大さ、自然の造形の見事さには圧倒される。大きな空間は天井の高さが20m、幅は40mもある。赤や青のカラーによるライトアップはあまりいただけないが、ライトアップされた背景の前に鍾乳石や石筍が上下から伸び、その手前の鏡のような池にそれらが映っている様子はまさに幻想の世界だった。ライトアップされた景観に気を取られ、足元の注意がおろそかになったツアーメンバーが、隅に置いてあった三脚を引っ

かけて倒してしまった。三脚には写真撮影用のライトが取り付けられていてそれが壊れたらしく、物音に気付いて走り寄った係員の「坏了!、坏了! (壊れた! 壊れた!)」の声にも、周りの薄暗さに紛れてだんまりを決め込んで立ち去ってしまった。寥さんも分かっているようだったが知らん顔。洞窟内部の40分ほどの観光は、それまでの外の暑さを忘れさせてくれるひんやりとした空気が気持ちよかった。

次の行程は予定では真珠工場でショッピングとしてあったがシルク工場に変更された。寥さんいわく、「桂林で真珠工場はおかしいでしょう。養殖している所もないのに」ということだがなぜこんな予定が書いてあるのだろう。上海や蘇州、北京のシルク工場と全く同じ説明があり、全く同じ商品を売ろうとしている。政府の方針で、桂林にも試験的に養蚕技術を導入して地場産業として発展させようとしているそうだが、ひょっとしてシルク工場は他の観光地で結構成功しているのだから、それを桂林にもという魂胆ではないかと勘ぐってしまう。他の観光地でシルク工場見学を何回も経験している人も多いようで、布団製作の実地では明らかに慣れた手つきで手伝っている人もいる。日本語で説明する従業員がいなかったため、急遽寥さんが同時通訳したが、寥さん自身がシルクから製品を作り出す工程を十分理解していないようで内容が十分伝わらなかった。

15:30頃「正阳路歩行者天国」へ。40分ほどの自由行動。最初の100m程度が観光客向けの売店が並んでいるが、その先数100m続く歩行者天国は桂林市民のショッピングのための造られているようだ。ツアーメンバーの一部は歩くのを回避し、売店の前の椅子に座ってアイスクリームや冷たいジュースなどで喉の渇きを癒している。例によってスーパーマーケットで面白そうなものを探す。朝食時に聞いたような危険性は全く感じる事がなく、本当にここでそんなことがあったのと不思議なくらいだ。空模様が怪しいなと思っていたが、集合時間直前に雨が降ってきた。16:10 ホテル帰着。雨はやんでいる。今日は夕食付きのオプションツアーで、参加しない場合は自分で夕食を摂らねばならない。オプションツアーに参加する人たちは17:30にバスで出て行くということだが、我々はまずシャワーを浴び、一休みしてから18:30頃出かけることにする。

雨はやんでいたが念のため傘を持って出る。ホテルには宿泊客の人数分ほどの傘が備えてあり、いかにも日本的なサービスだ。昨日の夕食後に見ておいたとおぼしきレストランに行ったら、客が誰も入っていない。間違えるはずはないがいささか不安なまま座る。メニューを見せてもらい、冷菜、湯(スープ)、蔬菜(野菜)料理、肉料理、魚料理などを適当にオーダーする。冷菜は黄瓜(キュウリ)のにんにく塩もみ、湯は猪(豚)、鶏、牛肉の入ったスープに冬瓜を入れてもらう。蔬菜料理は虎皮(肉厚の辛くないピーマン)炒めと空心菜炒め、肉料理は小姐の薦める小エビ炒めとし、魚は草魚の清蒸煮を頼み、さらに今日の特別料理ということで茄子のホイル焼きで合計1スープ、6菜のオーダーとなった。4人ならば適当なオーダー量だろう。まず冷えたビールで乾杯。すぐ出てきた冷菜のキュウリがうまい。そこから怒涛のように料理が出てきたが、いずれもかなり量が多く、しかもしっかりとした味付けだった。一応豆板醤は出してもらったが要なし。今日の昼までの桂

林料理の味付けは一体何だったんだろうと思ってしまう。始めは我々だけだった客もどんどん増え、昨晚見たのはやはりこの店だったと安心する。この味だったらよく客が入って当然だ。途中ビールから紹興酒に切り替えようと頼んだら、白酒（中国の雑穀で造った焼酎）しかないと言うのであきらめる。どの料理も非常に美味で、このツアーで初めて満足できる食事でありつけた。19：30 頃オプションツアー組のバスが帰って来たのが見えたが我々は20：00 頃まで食事を楽しんだ。飲んだビールは大瓶5本で4人の酒量としては大したことはない。最後に清算してみて驚き！ 何と合計で110 元だ。1 スープ、6 菜プラスビール5本でこの値段。一人約28 元。

セーフティボックスの貴重品を受け取って部屋に帰り、隣室で最後の夜の飲み会。今回のツアーの印象や今夜の夕食についてひとくさり感想を述べ合う。昨日の残りのブランドーもなくなったところでお開き。今日は雨の予報だったが、幸いにもツアーに影響が出るような形での降り方はなかったのがよかった。帰国のために荷物をまとめる。11：00 就寝。

5月28日 桂林—广州—上海—セントレア

朝食6：45。レストランに向かう時は大雨。今日は雨が降っても移動するだけなので安心だが、降りすぎるとフライトに影響が出ないか心配だ。桂林は雨で飛行機が遅れることはよくあるそうだ。朝食時に聞いた昨晚のオプションツアーに参加した人の話によると、「特別料理ということだったが、これまでの夕食に1～2品料理が多かっただけで特別料理と言うほどのものではなかった。酒を飲む人は飲み放題だったから良かったかも知れない」とのことだった。オプションツアーの料理の代金として一人日本円で3000 円だったから、我々の一人28 元（450 円弱）で大満足の料理に比べるといかに違うかが解るというもの。今回われわれは全てのオプションツアーに参加しなかった。多分オプションツアーはCITSが手配し、参加料金の一部が懐に入ることになっているのだろうが、舞踊の観劇、ナイトクルーズ、鶴飼見物などいずれも参加する気にならなかった。寥さんのためには気の毒だったかも知れない。雨が降っていると荷物を部屋からフロント棟まで運ぶのが大変なので福島夫妻の荷物と一緒にベルボーイに運んでもらうことにする。換金レートがいいので早めにフロント棟に行って次回中国へ来るためのために換金する。本日のレートは1万円が732 元。

9：00 集合、出発。10：00 桂林両江国際空港着。酒のつまみに食べようとセントレアで買って来たが、食べずに残ってしまった生チョコレートを寥さんにプレゼントしてお別れ。定刻11：40 離陸。广州着12：30。何さんが待っていて、国際線の方へ移動する。桂林で寥さんは「出国手続きは广州で」と言ったが、何さんは「上海で」と言う。来たときのことを考えると当然上海だが一部混乱した人が出国カードをあわてて書いていた。14：30 广州発、16：40 上海浦东国際空港着。出国手続きを済ませ、レストランで中ジョッキ1杯68 元というバカ高い生ビールで乾杯。昨晚の食事と比べると何と高いことか。17：50 搭乗。中国南方航空の機内食は、アルミ容器の中で熱された鶏 or 魚（プラスライス or パスタ）の

選択だが往復ともまあまあの味だった。それとは別のボール箱の中に丸パン、生野菜、デザートが入っている。今後料金を安くするために、食事のサービス取りやめや酒類の有料化を検討している航空会社もあるやに聞く。セントレアから上海やソウルなど短時間のフライトなら義務的に提供されるさほどうまくない機内食など必要ないだろう。

中部国際空港着定刻 21:35。機内預けの荷物を受け取り、大急ぎで空港シャトルバス乗場へ。10:00 の東横イン行きのバスに間に合った。部屋に入って荷物を置き、福島夫妻と1階の簡易食堂へ行く。食べたかったラーメンはなかったが、つまみ類を頼んで焼酎を飲みながら小腹を満たす。24:00 就寝。

5月29日 セントレア—自宅

6:30 起床。1階で朝食。7:30 帰宅へ向けて出発。帰着 11:40

後記

今回のツアーに参加した人の構成：夫婦二人7組（60台～70台）、老夫婦（70台）+娘（50台か）、3人姉妹（50台～60台か）、男性（60台）1人の合計21名。若者は皆無。中高年者団体。ちょっとおかしな言動の人もいたが、他人に迷惑をかけるほどではなかった。

今回の旅行内容として、桂林滞在中の行程は時間がゆったり取ってあってよかった。また、4日間同じホテルだったため、荷物の移動を考えなくて済んだことも楽であった。しかし、奥地の自然景観などの観光がもう少しできたらよかったと思う。

不満足だった点のまず第1は、セントレア—上海—広州—桂林という無駄なフライトをしたこと。桂林へダイレクト便はないことは承知しているが、上海経由ならセントレア—上海—桂林、広州経由ならセントレア—広州—桂林というルートをなぜ設定できないのか。第2点は、食事内容が極めて貧弱だったこと。量的には問題ないのだろうが、一般的なレストランで食べれば極めて低価格のメニューがほとんどで、しかも味が良くない。いつもツアーでしか旅行していない人は一般人が入る普通のレストランで食事する機会がないので、地元の料理はこんなものかと思っているのだろう。ツアーを離れて現地の一般のレストランで食事をしてみればその違いは明らかである。一度そういう経験をする、いかにツアーの食事内容が貧しいものかを理解できるはずだ。

不満足な点はあったが、総じて言えばいい旅行だったと言っていいのだろう。一度は行きたかった桂林であるが故に。ただ今回は天候が良すぎたために幽玄の山水を見ることができなかったことがいささか心残りである。